

まちづくり通信



例年にないほどの長雨の続く梅雨でしたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月も再開発事業について、どんなことをするのか、これから何をするのか、など皆さんの疑問・不安を解消し、理解を深めていただくために、発起人会の会報として「まちづくり通信」を発行します。発起人会のことや事業のことなど、何かありましたらお気軽に理事までご相談ください。

瑞浪駅前もこんな風になったらいいな ～魅力あるまちづくりの例～

【宮崎県日向市 日向駅前交流広場】

前回に引き続き、日向市の例をご紹介します。再開発で街がどう変わったのか見てみましょう！

その1 歩行者・自転車交通量が2.8倍に増加

街並みのリニューアルと街路樹による木陰を意識して配置したことにより、街の印象が明るく瑞々しい景観に変わりました。商店の集約やスーパーの出店により、歩行者・自転車交通量(休日)が2.8倍(1,289人から3,601人)に増加しました。



← 交流広場で遊ぶ子供たち
親子連れの姿も増えて賑やかに

その2 イベント数が大幅増加

市民が自分たちで企画するイベントが22倍(3回から66回)、集客数が60.5倍(3,400人から206,000人)に増加しました。月に4～5回のイベントが開催されています。イベントは各主催団体の代表者が集まってつくった「中心市街地イベント連絡協議会」が中心となって企画されています。



← 日向ひょっとこ夏祭り
バサミみたいな踊りメインの祭りも開催

VOICE～会員の声～

会員の皆様のご意見を紹介します

今回は、瑞浪駅南地区市街地再開発事業発起人会 副代表理事 永治高三さんです。

「再開発」という言葉をよく使うようになって早4年半ほどになり、つくづくこの「再開発」という明るく夢の様な言葉が、こんなにも深く、重く、広がりのあるそして時間がかかるものであることを痛感しているこの頃です。それでも偶然のいいめぐり逢い、素敵なお縁が重なり合い、瑞浪市、国土交通省、森ビル都市企画(株)などから膨大な情報、貴重な資料、破格の予算など、本来我々自身が負担するべきところをご協力いただき、発起人会というスタート地点に立てた今、大変わくわくしているところがあります。

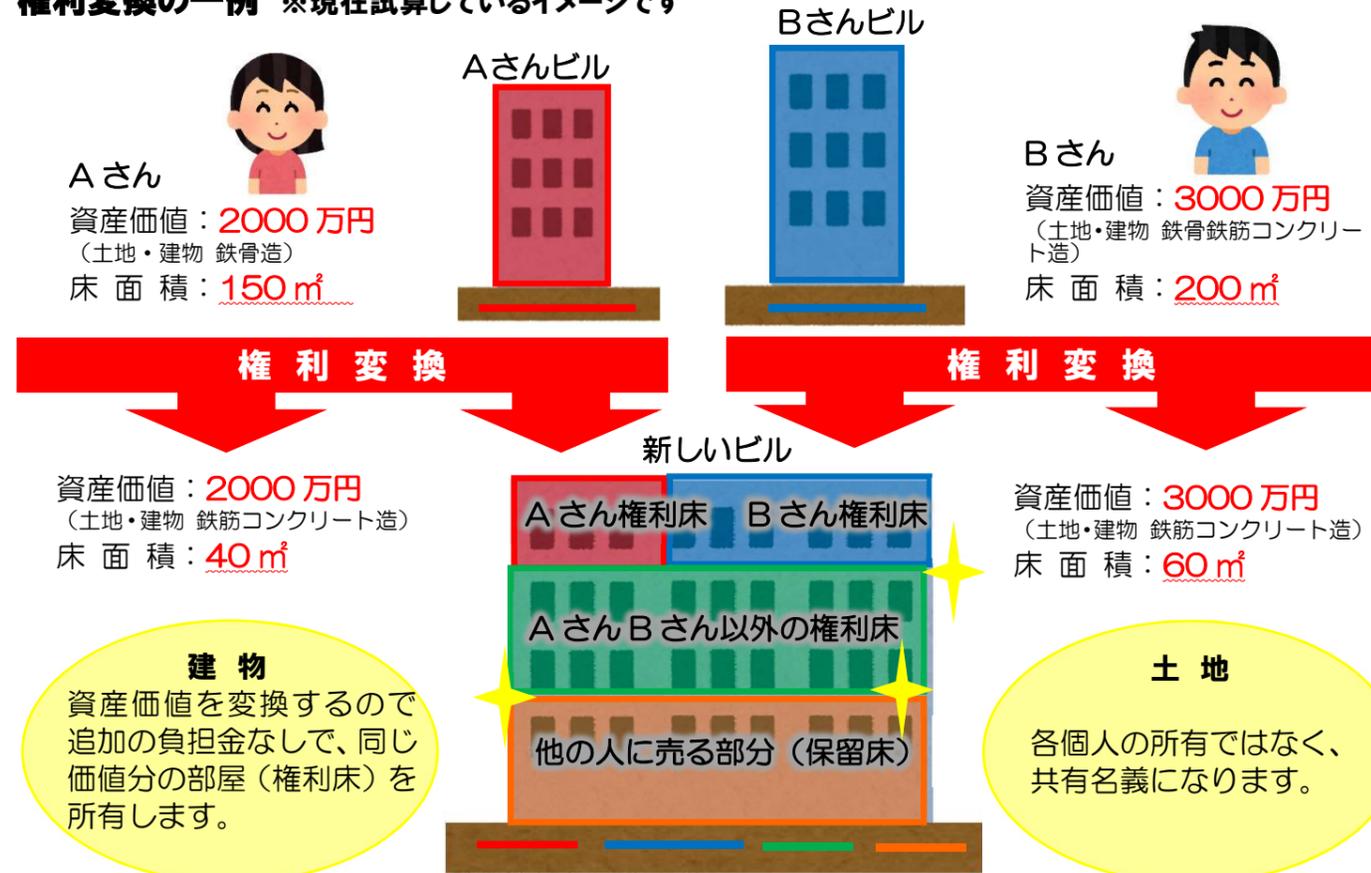
わからないこと、知りたいこと、疑問や不安があればどんどん出して、みんなで話し合い、進めて行けたらと思っています。



まちづくり講座 皆様の疑問を解決します！ Q 再開発で私の住まいはどうなるの？

A 新しいビルに地権者用の住居がつくられ、現在の資産価値と同じ価値の部屋(権利床)を持つことができます。

権利変換の一例 ※現在試算しているイメージです



●建物を比較すると、新しいビルの方が坪単価が高くなります。また、事業にかかる仮住まいの諸費用等も事業費として扱われます。そのため、建物の構造や築年数によって変わってきますが、同じ資産価値といっても、床面積は3分の1～4分の1程度になります。

※事業費は現在の概算で計算してありますので、今後変更する可能性があります。

●現在の資産価値で変換されたものより広い面積の部屋が必要な場合は、追加の負担金が必要になります。

発起人会の活動

●7月から 会員の個別家族相談会

理事会役員以外の会員を中心に、ご家族も交えた個別の相談会を行っています。現在、日程調整が終わり、順番にお話を聞いているところです。相談会の折には、再開発事業に対する疑問・不安やご自身のお考えについてお聞かせください。

8月までにすべてのご家庭の相談を終えられるよう進めて行く予定です。